

第17回 日中韓三カ国会計基準設定主体会議を開催

2017年11月27日、中国の杭州において日本、中国、韓国の会計基準設定主体による会議が開催され、40名近くの参加者が出席しました。本会議の参加者には、企業会計基準委員会（ASBJ）の小野行雄委員長、中国財政部会計司のYibin Gao 中国財政部会計司司長兼中国会計准则委員会（CASC）主任、Ying Wei 中国財政部会計司司長、韓国会計基準委員会（KASB）のEui-Hyung Kim 委員長、香港公認会計士協会のShelley So 委員長、マカオ監査人会計士登録委員会のPou Man Ng 委員が含まれています。また、国際会計基準審議会（IASB）からChung Woo Suh 理事及びJianqiao Lu 理事も本会議に参加しました。

今回の会議では三カ国の代表者（香港及びマカオの参加者を含む。）より、各会計基準設定主体の法域における最近の国際財務報告基準（IFRS）の適用状況及び各法域における会計基準の開発状況について紹介されたほか、IASBの主要プロジェクトに関する詳細な議論を行いました。本会議の参加者は、次の事項について同意しました。

1. アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）の将来の戦略の開発、及びアジア・オセアニア地域内の会計基準の能力強化において、アジア・オセアニア地域内の会計基準設定主体の中で主導的な役割を継続して果たすこと。
2. 収益及び保険契約を含む主要な新基準の適用の経験に関して、三カ国間のコミュニケーションを強化し、これらの基準の適用に関する経験を共有し続けることにより、世界経済に貢献すること。
3. 単一の高品質なグローバル財務報告基準に貢献するために、IASBの主要プロジェクトに関して三カ国間の連携を強化すること。

次回の会議は、2018年10月に韓国のソウルで開催される予定です。

以上